

意識がなくなり倒れかけた俺 助けを求めたパチンコ屋 以来そこの店員さんと仲が良くなって・・・

仕事などのつらさによって俺は頭がおかしくなって要は狂ってしまって、ふらふらと街を漂う日々が続いた。

この世界にこれまでと変わらずに生きているという事実は同じ。

しかし頭の中が狂うということは・・・・・・・・。

人は頭つまり脳を使ってこの世を認識し生きていくのであってそこが壊れてしまったわけだから見える世界が変わり大変だった。

一種のピークに達したとき、俺は意識朦朧（もうろう）とし

た耗弱（こうじゃく）的な状態になりふらふらと助けを求め始めた。

しかしやばい・・・このままではやばいという思いは頭の隅っこに残っていた。

よくあるケースともいえる。

世の中にはこういったケースはごまんとある。

会社で人間関係のストレスいざこざなどからひきこもりになってしまったり病院へ通う羽目になってしまったり。

そこで俺がたどり着いたのはパチンコ屋だった。

客の人に助けを求めると店員さんを即座に呼んでもらった。

意識朦朧の中で、俺は救急車ではなく店員さんに実家に帰る
タクシーを呼んでくれと頼んだ。

実家には親が住んでいる。

しばらくそこで休養しようと思ったのだ。

まあそんなこんなで、いろいろ変遷を経て再び普通に同じマ
ンションで生活を始めたのだが、

その時パチンコ屋の店員さんとは顔見知りになった。

命の危機的状況。まあ意識朦朧なわけだからそう言っても大

げさではないと思う。

危機を助けてもらった。

深いところで知り合いになったような気がした。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)